

同窓会だより

発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

千葉県船橋市東船橋6-1-1
〒273-0002 TEL047-422-2188
ホームページ <http://www.funabashi.gr.jp/kenfuna/>
E-mail funakoudousoukai@yahoo.co.jp

印刷 (株) サラト
姫路市北条宮の町172番地
TEL 0792-84-1380

題字／小原天簫先生 写真／母校全景



母校はいま

縁があつて、また船高に戻つて来ることになりました。年令は卒業当時の二倍になりました。年令は卒業当時も十年以上が過ぎたのに、ここに来ると何年経つても生徒のままのようない感じがします。とにかく母校に戻るといふのは複雑な気分です。

私の在学当時と比べると、学校の様子は大きく変わりました。同窓会だよりを毎回ご覧になつて居る皆さんにはもうお馴染みの話題でしょうが、私は次のような点に時の流れを感じました。

・ 一つの間にか校舎がひとつ増えて三つになつて居る。
・ 全日制のクラスがひとつ増えている (一学年十クラス)。

・ ドーム付のプールやセミナーハウスがある (宮本中側プールはテニスコートになつていた)。

更に私が驚いたのは、全日制に女子生徒が増えたことです。普通科の生徒の男女比はほぼ一対一です。昼間は合計三十クラス、約一、二〇〇人の男女が教室棟などの狭い空間にひしめいている様子は、何とも形容しがたい光景です。

私がお世話になつた先生方はひとりもいません (私と同じくこの四月に着任した大串教頭は、私が在学当時、国語科の先生として船高に在籍していましたが)。以前は船高在籍数十年という先生もいましたが、現在の公立高校は職員異動のペースが早まつているのです。

しかし教室棟の中は、耐震のための鉄骨を除いては私の卒業当時のままの雰囲気です。
校内行事の中には、もうなくなつ

てしまったもの (寒稽古など) もありますが、文化祭等の各種行事や部活動は今も盛んです。自分は部活動もせず三年間の高校生活を送つてしまつたので、当時の思い出といつても、これといつて特筆すべきものはありません。それでも合唱祭やかるた大会に参加したことなどは、今でも覚えて居ます。現在私は卓球部の顧問になり、生徒に打ち方を教えてもらつて居ますが、当然のことながら、週一ペースの練習ではなかなか上達しません。

来年度の生徒の募集定員は、全日制が普通科八、理数科一の計九クラスに戻ることが決まりました。定時制は三クラスで変わりません。

募集定員に限らず、時代の要請を受けて、学校は今後大幅な変化を迫られることになりそうです。来年度からは週休二日制の実施、再来年からは新教育課程の実施 (情報科、総合的学習の時間等の新設) が予定されています。船高でも、新課程実施に向けて、年間計画の改善等が検討されています。

担当教科の数学については、船高では椎名先生と村山先生にお世話になりました。自分が当時の先生方の立場になつたといふのは、やはり複雑な気持ちです。同窓会の総会でも挨拶をさせていただきましたが、微力でも母校の発展のために、頑張りたいと思います。

寄稿 湯原 英治

県立船橋高校教諭

(平成十三年着任
昭和五十八年卒)

新たな世紀に 新たな飛躍を



同窓会長

三代川 幹 雄

(昭和二十三年卒)

習志野・八千代地区保護司

大正九年に船橋中学院として誕生した県立船橋高等学校は平成十二年に創立八十周年を迎えました。

創立以来、卒業生は二万五千余を数えるにいたり、各界での同窓生の活躍は枚挙に暇がなく、活躍の場も国内はもとより、世界各国にまで広がっております。

今回の記念行事で多くの同窓生諸兄にお会いし、世界で活躍されている姿に接するたび、正に校歌の「輝く歴史に轟くその名」と言う一節が思い出され、同窓生の一人として、母校への誇りと愛校の念を一層深めてまいりました。

同窓会では、この様な母校へ

変化のときに



校長

町田 義 昭

(平成十三年着任)

私は、今年度四月に本校の校長として着任しました町田です。よろしくお願い申し上げます。

本校は、昨年度八十周年の記念式典を終えた伝統校であること、県下有数の実績を持つ進学校であること、一学年のクラス

数が全日制の課程十クラス・定時制の課程三クラスの県下で最大規模の学校であること等、多くの特色と、地域社会から信頼を勝ち得たすばらしい学校だと感じています。現在、県教育委員会では、県

の思いを一人でも多くの同窓生と分かち合うため、春の同窓会を毎年二月十一日に開催し、また、同窓会だよりを定期的に発行してまいりましたが、創立八十周年を期して同窓会活動の充実を図るため、ホームページを作成することとしました。

世界中で活躍されている同窓生の皆さんに母校の今と同窓会の活動を知っていただき、より多くの皆さんに、より多くの情報を提供するとともに、再会の場として、また情報交換の場としてご活用いただければ幸いです。是非、ご活用ください。

二〇〇一年新たな世紀に、九十周年、百周年へと我々が船高のますますの飛躍と、同窓生諸兄のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げます。

立高等学校全体の大きな課題として、少子化に伴う生徒減少、及びこれからの社会の期待や要請の変化に対応して、適正規模・数、魅力ある学校等に再編し直す必要があるとして、その具体化に向けて検討を進めています。示された再編計画(案)では、今後十年の間に一四二校ある学校数を一二五から一三〇校程度にし、学校の形態も単位制高校、中高一貫教育校、三部制の定時制独立校等々従来の学校形態にとらわれない特色ある学校の設置を行うことが示されています。再編される学校名等の具体的な内容は、来年度の早い時期に公表される予定となつ

ています。

このような状況は、本校も全く無縁ではないと考えています。

その他に、現在の高校生全般に学力低下が著しいという指摘も聞かれますし、大学入学者選抜の方法等も変化する兆しが見えてきます。このように、学校を取り巻く環境は大きく変わ

うとしています。

私ども学校職員は、状況の変化と、同窓の皆様や地域の方々、保護者の皆様等の要請や期待に適切に対応しながら、船高が着実に成長するために不断の努力を続けてまいりたいと考えていますので、今までの以上の御支援をお願い申し上げます。

船高という青春



教頭

大 串 清

(平成十三年着任)

私は昭和五十三年から十四年間、国語科の教師として二階の研究室にいたのだが、その間さまざまな出会いがあった。

まずは環境。南館の奥に船高農園があった。レタス、薩摩芋、ジャガイモ、ホウレン草、枝豆、

二十日大根等々、六月の体育祭の賞品にしたり、たちはな祭に配ったりした。砂地のため石灰を十分に撒かないとホウレン草が発芽直後に消えてしまうことが不思議だった。それにしても

放課後、生徒と一緒に草取りや、種蒔きは実に楽しかった。

教科の指導法についても実にさまざまな方法を試みた。教室は実験の場であり生徒がどう反応するかを楽しみであった。た

ちはな祭ではS君が創った演劇の舞台作りの設計図に目を見張

った。施設は傷つけずに暮を置き、机や教壇を利用して完璧なまでの舞台設計であった。課外活動では生徒と一緒になって選手を応援し、一喜一憂し、楽しんだ。

どの先輩教師も尊敬できた。我々若手は酒席でよく議論を仕掛けたりもしたが、やんわりと宥められるのが常であった。教科の指導法にしても、授業の様子をよくこつそりと盗み見た。そこには単なるテクニクなどではなく、何

よりも教材への愛着と深い理解があった。多趣味な先輩教師も多かった。山歩きや囲碁、拓本や詩吟

など数多く感化された。

私の年齢も三十代で、教職生活の中ではまさに青春時代であったといえる。



平成十三年度陸上競技大会

～母校に集う～ 「春の同窓会」

実行委員長

天羽生 豊 (昭和三十五年卒)

毎年、我が母校の春の同窓会が開催されていますが、ここ数年、母校創立八十周年ということもあり、この「同窓会だより」が多くの会員に送られているというところで、改めてお知らせするまでもなく、二月十一日建国記念日は「春の同窓会」の日、ということには皆さんご存知ではないでしょうか。

平成十四年も二月十一日に開催し、幹事を務めますのが、昭和三十五年卒、第十二回の卒業生です。というのも、毎年、還暦を迎える同窓生が幹事を務めるというルールとなっており、今回、この大役を我が学年がおおせつかったです。

さて、今回の同窓会、例年どおり、ホテルサンガーデンららぽーとが会場となります。京成線センター競馬場前駅(現「船橋競馬場」駅)が最寄り駅ですので、会場へいらつしやる前に、母校を訪ね、頂く事もできるかと思えます。

年に一度の同窓会、同期の面々と恩師との再会、思いがけない先輩や後輩との新たな出会い等々と、楽しい、有意義な同窓会を演出したいと思ひ、既に、懐かしい同期の面々と打合せを重ね、着々と準備を進めております。年を経ても我が母校立船橋高校で過ごしたという共通の思いは消えることはありません。この母校への思いを先輩から後輩へと受け継ぐためにも、そして、同級生や恩師とも分かち合うためにも世代を超えて同窓の輪を広げましょう。

一人でも多くの同窓生、恩師にお集りいただけるよう紙面を通じてお願ひします。

船高の歴史・補遺 (八)

―戦時中の船中(軍事教練)―

千葉県立船橋高等学校教諭 小川 信雄 (昭和三十八年卒)

船橋町が市制を施行したのは一九三七(昭和十二)年四月一日で、三ヶ月後の七月七日に中国北京郊外で日中両軍が軍事衝突をおこし、日本は全面戦争にのめりこんでいくことになる。本校が私立船橋中学校から、船橋市立船橋中学校へと設立認可されたのは一九四〇(昭和十五)年四月一日で、同年に日独伊三国軍事同盟が締結されている。さらに県立中学校に移管されたのは四四(昭和十九)年三月三十一日で、敗戦の前年である。つまり、戦前、船橋中学校の発展期というのは、そのまま日本の戦時体制期なのである。

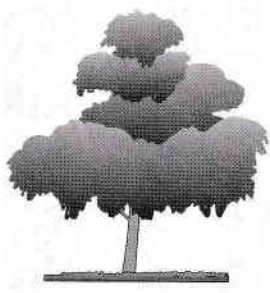
たとえば、『東京日々新聞 千葉版』には一九四〇年十二月二十六日付「中小学徒の冬の鍛錬陣 船橋中学」には「毎週一度学校騎兵学校(現在の習志野の第一空挺師団駐屯地)往復一万米の競走を行ってゐるが、三学期早々から武道の寒稽古を開始、耐寒長距離強行軍を行ふ予定だが、市の炭焼奉仕も行ふ」とある。また戦前の中学校では軍事訓練の意味もある「滑空機」(グライダー)操縦の部活動も盛んで、千葉県下の中学校滑空機の合同訓練や大会がおこなわれていた。同新聞の同年十一月十七日付「船中号」命名式」に

は船橋中学校でも滑空機を所有し、その命名式を十一月十六日に「三田浜埋立地」でおこなったことが報じられている。当日は「生徒職員をはじめ後藤(秀四郎)市長：市議員等多数参列し、大神宮千葉(健吉)宮司の修祓の上「船中号」と命名した。式後、初滑空を行ひ日本飛行機俱樂部青木滑空士ほか：道本(船中)教諭連の模範滑空があり、小学児童の見学などで賑はつた」という。道本とは同年四月一日に赴任した理科の道本実教諭のことである。道本教諭はその後、徴兵され、戦後は船橋中学校・高等学校の教諭として全日制・定時制で勤務して、定年退職された。私が船橋高校定時制に初任で採用された一九七〇(昭和四十五)年当時、定時制教務主任であったが、そのようなエピソードがあったことを知らなかった。

そして戦時体制期の学校でできたことのひとつに軍事訓練がある。一九二五(大正十四)年に「陸軍現役将校配属令」が公布された。これは国家主義的な忠君愛国思想の養成とワシントン体制のもとで、軍備縮小によって生まれる将校の失業救済を目的としたものであったが、この「配

属将校」の登場によって中学校における軍事教練も本格化した。こうして軍事教練も日中戦争の激化によって強化されたが、『東京日々新聞 房総版』の記事によれば、千葉県では一九三九(昭和十四)年から県内中等学校連合演習を始めている。十月二十、二十一日、鹿島川を挟んだ印旛郡域で二、四一七名、三十校が東西両軍にわかれた演習をおこなった。立田千葉県知事が統監となり、高瀬学務部長が審判長になった。船橋中学校は千葉中学校とともに西軍に属し、三千名が参加している。翌四〇(昭和十五)年は十月十九、二十日に下志津原で二、六二一名の中学生が南北軍にわかれ、船橋中学校は南軍第二十中隊に編成されているが、参加数はわからない。

こうした連合演習という軍事教練は新聞記事では四十二(昭和十七)年までおこなわれたことは確認できるが、その後の記事はない。アジア・太平洋戦争の戦局悪化と通年の勤労動員の強化、また在学中の生徒の入営などによって、学校教育が解体するなかで、連合演習自体が実行不可能になったと考えられるものの、詳しいことは不明である。





一九七七年卒業生の栃木孝夫さんは「THE BOOM」のドラムスとして音楽界で活躍されています。二ユーシングル「神様の宝石」でできた島／島唄が発売された直後の十月十二日、渋谷のオープンカフェ「SHIBUYA@FUTURE」で「THE BOOM」の写真展を行っている栃木氏にお話を伺いました。

今回のインタビューは同期の寺本健氏のご協力により実現しました。

「THE BOOM」がデビューして十二年。さすがに船高OBにもロックバンドのドラマーはいないでしょうね。

栃木 俺は高校時代、まじめだったですよ。むしろ同窓にバンドを組んでるやつがいて、大学へ入ってから彼らに誘われたのがこの道に目覚めたきっかけですから。

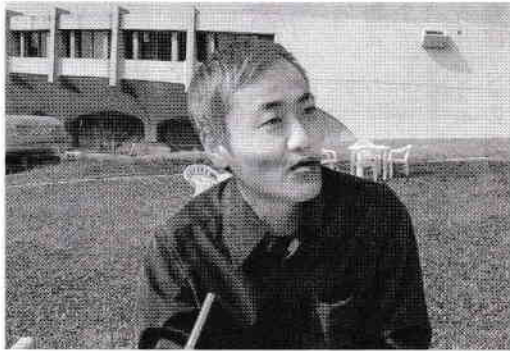
なにやら青春群像がありそつだ。

栃木 音楽は聴いてたし、運搬とか照明で彼らの手伝いも

してましたけど、メンバーの一人が急に辞めることになっちゃらしく、明日からドラムをやってくれと頼まれたんです。もちろんそんなものやったことないから、イーグルスのコピー譜を買ってきて学校の勉強以上の集中力で練習しました。それからハマっちゃったんでしようね。

栃木

大学のほうは大丈夫だったんですか。千葉大の工業意匠という学科ですけど、当時はわりあい自由でした。就職シーズンとなって俺だけ試験を受けずにいたときも、大学院へいけるよう教授が取り計らってくれましたから。実際には音楽活動をしたかったので大学院にはいかず、教授には迷惑をかけました。それより大変だったのはバンドのほうです。俺を誘っ



栃木

た張本人は早稲田の理工で忙しくなり、さらにその仲間と会社を作っちゃいましたから、俺だけ取り残された感じで。でも、音楽をあきらめられなかった。

栃木

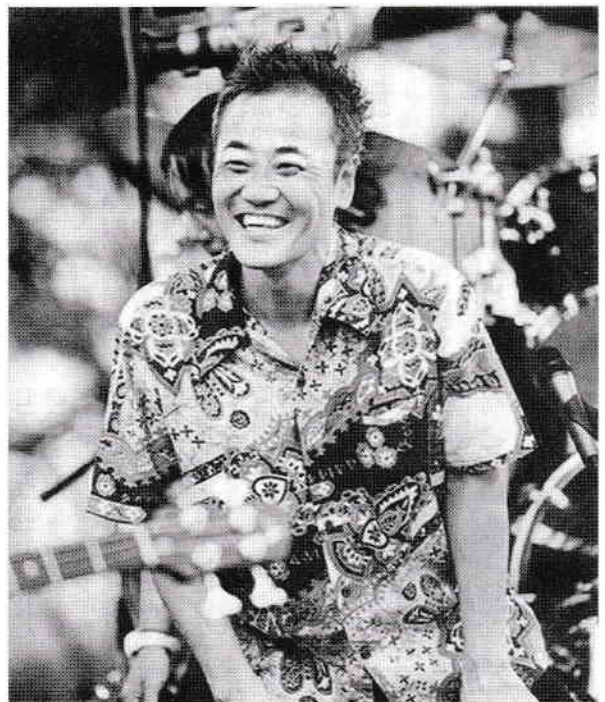
そのころはすっかりプロのドラマーになるつもりでいました。といつてもなんのアテもなく、バイトをしながら個人練習できるスタジオに通うという毎日、そこで知り合った連中とトリオのバンドを組んだりしてました。俺は音が出ればよかったし、あまりカラーにこだわらなかつたけど、ドラマーの立場ってフロントマンに合わせるタイプが多いから、バンドの核にはなりにくいんです。

栃木

「THE BOOM」のメンバーと出会ったのは？

ベースの山川が俺たちのバンドに入ったんだけど、彼が山梨の実家へ帰っているうちこつちが解散状態になっちゃった。で、彼が戻ってきたときギターの小林、ボーカルの宮沢を連れてきていて、俺がそつちのグループに加わるかたちとなった。俺だけ出身地も年齢も違うけれど、妙にうまくハマりましたね。

そのまえにホコテン（歩行者天国）で話題となり、ソニーのオーディションを通るまでもけつこうなドラマがあるんですが、ちょう



2001年ツアー山梨でのライブにて 撮影：中川正子

栃木

目を前の興味のあることをやっていくというスタンスです。これまでもそうしてきたし、続けられたらいいなと思います。その都度の出会いを大切に、これしかありません。

栃木

いまの高校生や、その親たちに噛みしめてほしい言葉です。

栃木

瞬間的に売れてもすぐに忘れられていくバンドが多いなかでは貴重な存在です。単なるロックバンドとしての「THE BOOM」だけじゃなく、その旗印のもとにそれぞれのソロ活動やミュージカル、今日のような写真展など、いろいろなか

「THE BOOM」のホームページ
<http://www.five-d.co.jp/boom/>

同窓会事業報告

平成十二年度事業報告

十二年度の事業に伴う決算は別添表の通りです。

十二年度は創立八十周年にあたり、昭和二十八年卒より昭和五十五年卒の同窓生学年幹事の御尽力により募金頂いた一、五〇〇口を越える厚志を十二月十一日二十四日船橋高等学校における記念式典において、三代川同窓会会長より贈呈致しました。当初目標を達成できましたのは同窓生の愛校精神の賜物と深く感謝する次第です。

船橋高等学校同窓会は、毎年二月十一日に春の同窓会を、八月第一日曜日に通常総会を開催しており、本年も、多数の会員の皆さんにお集り頂きました。会の模様と総会での承認事項をご報告いたします。

又、募金もさりながらこれを機に同窓生の連絡の鍵となる学年幹事の年代別繋がりが出来たのは、今後の同窓会にとり大きな収穫であったかと存じます。更に若い世代が、インターネットを駆使し連絡を取り合い同窓会の開催や募金の呼びかけを行った実態には、新たな同窓会運営のあり方を示唆していると思われれます。

同窓会便り発行に関しては、今年度も住所判明者全員を対象に同窓会便り、二月十一日春の同窓会案内を同封し一八、二八六通送

事業協力金について

平成十年度より同窓会だより発行・送付費用として一口千円の協力金をお願い致し、十一年度は八十周年記念事業募金があるので中止致しました。十二年度は、同窓会便りの発行が中心ですが広く事業活動の原資として再度復活し、一

付致しました。(経費二、七八三三、三六六円) 今後は、船橋高校のホームページの立上を周知し、その兼ね合いで経費的圧縮が図れればと考えております。

七八一〇三、〇五九、二二〇円のご協力を頂きました。

平成十二年度春の同窓会

(二十三年二月十一日)

「還暦を迎えた同窓生が幹事学年となり、実行する春の同窓会」も七回目を迎え、今回は昭和三十四年金子安雄実行委員長のもと、地元船橋の「ホテルサンガーデンららぽーと」で二七名の参加をえました。十三年が八十周年記念ということでも幹事学年は無難、他学年でも同期会を開始した学年も多かった事や三連休の最後ということ、参加者は例年より少なかったのですが、還暦という人生の節目に、利害得失の無い同窓生と久闊を分かち、作今の暗い社会経済状況を吹き飛ばし懐かしいひと時を過ごしました。平成十三年度

も昭和三十五年卒 天羽部豊実行委員長のもと、多くの人生賛歌が拝聴出来ればと楽しみにしております。

ホームページ等の活用

(中略) 同窓会だよりは関係ありませぬか

募金活動を通し教示頂いた「指とま」には同窓会事務局の島崎理事が船橋高等学校で登録しました。又、十三年度には、船橋高校同窓会のホームページを昭和四十三年卒大野理事、鳥光学年幹事のお骨折りで立ち上げましたことは既に当便りでご承知かと存じます。今後は同窓会便りを乗せさせていただきますので、費用のかかる同窓会の送付は出来ないよという方は一報くだされば幸いです。又、ホームページの更新他運営にご協力頂ける方募集しています。

平成12年度一般会計収支決算報告書

1. 収入の部

科目	11年度決算	12年度予算	12年度決算	備考
繰越金	1,554,708	2,013,074	2,013,074	
会費収入	1,000,000	1,000,000	948,000	全406 定68
雑収入	770	1,000	1,275	
その他	0	0	0	
合計	2,555,478	3,014,074	2,962,349	

2. 支出の部

科目	11年度決算	12年度予算	12年度決算	備考
会議費	総会 54,000 役員会 53,350	150,000	62,400	
必要費	通信費 46,660 印刷費 73,960	100,000	125,050	含：校内印刷費
後援費	消耗品費 0 人件費 10,000	20,000	0	
交際費	団体支出金 165,000 卒業記念費 96,564	350,000	255,000	総会案内宛名書き 全国大会出場補助他 卒業証書筒
事務局費	育英金 0 組織企画費 25,000	120,000	87,998	クラス会補助 6件
予備費	会長 0 庶務費 0	20,000	30,000	
次期繰越金	17,870	150,000	44,150	交通費等
合計	2,013,074	3,014,074	2,962,349	

3. 財産目録

一般会計積立金	700,000	郵便局定期貯金
積立金利息	43,008	H13年3月末(税引き後)
合計	743,008	
自動車1台		トヨタハイエース4WD(平成6年式)
同窓会専用1具		

平成12年度特別会計収支決算報告書

特別会計1 春の同窓会基金

1. 収入の部

摘要	11年度決算	12年度予算	12年度決算	備考
前期繰越金	2,942,882	400,000	400,000	
会費等収入	2,950,000	3,000,000	2,300,000	会費(222名分) 謝労志(5名分)含む
利息	2,007	100	802	前年度会費(292名分) 謝労志(3名分)含む
合計	5,894,889	3,400,100	2,700,802	

2. 支出の部

摘要	11年度決算	12年度予算	12年度決算	備考
要会費	2,149,000	2,200,000	1,728,037	本年度227名、前年度295名
同アトラクション代	0	150,000	53,150	
通信費	15,480	50,000	139,850	出欠理通知 後納科11年度幹事学年のみ
幹事学年打合せ費	100,000	100,000	107,000	
運営費	48,000	50,000	45,000	名札・参加者名簿等作成
事務局・実行委員打合せ	82,712	50,000	48,600	
特別会計2への繰出		400,100	179,165	
次期繰越金	3,499,697	400,000	400,000	
合計	5,894,889	3,400,100	2,700,802	

特別会計2 記念事業関係

1. 収入の部

摘要	11年度決算	12年度予算	12年度決算	備考
前期繰越金	2,765,027	18,267,758	18,267,758	「記念事業」関係
事業協力金	0	0	3,059,120	同窓生1,781名振込3月末確認サラト
会員名簿販売代金	0	20,000	72,000	
80周年名簿還元金	2,800,000	0	0	
80周年寄付金	13,434,000	10,000,000	8,752,448	1,567名 平成13年3月31日現在
特別会計1よりの繰入		400,100	179,165	
利息	4,321	5,000	3,535	
合計	19,003,348	28,692,858	30,334,026	

2. 支出の部

摘要	11年度決算	12年度予算	12年度決算	備考
同窓会だより発行	2,997,165	2,000,000	2,783,366	会報発送18,286通分
振込み手数料	227,312	200,000	3,545	寄付金振込み料含む
名簿銀箔代	200,950	0	0	
通信費	118,150	120,000	172,514	
名簿管理費	172,486	200,000	115,106	サラトデータ出力等
打合せ会議費	117,030	120,000	206,035	
学校寄付金		12,500,000	12,500,000	
学校寄付金特別寄付金		3,000,000	0	
寄付金募集経費		2,800,000	2,600,000	
寄付書の礼状他		1,500,000	830,557	
予備費		500,000	0	
雑費	2,194	10,000	75,850	コピー代他
次期繰越金	15,168,061	5,742,858	11,047,053	預金3口座+5月26日監査確認
合計	19,003,348	28,692,858	30,334,026	

母校の現況

●全日制の部活動●

注：番号の区分

- ①十二年度新人大会
- ②十三年度関東大会予選
- ③同インターハイ予選
- ④その他

(運動系部活動)

- バドミントン
 - ①男・女団体ベスト16
 - 男シングルスベスト16
 - 女ダブルスベスト8
 - ②女団体ベスト16
 - ③女シングルスベスト16
 - 女ダブルスベスト8

アーチエリー

- ①男団体二位
- ③女団体四位
- ④女個人団体出場

バスケット

- ①女一回戦敗退 男一回戦敗退
- ②男ベスト16
- ③男ベスト16 女一回戦敗退

柔道

- ①男団体一回戦敗退
- ②男団体ベスト32
- ③男団体一回戦敗退

新体操

- ④PTA総会とたちばな祭で演技披露

バレーボール

- ①男・女ベスト16
- ②男ベスト16 女ベスト8
- ③男・女ベスト16

テニス

- ①男ベスト16 女ベスト32
- ②男・女ベスト32
- ③男・女二回戦敗退

陸上

- ①19種目39名プロ大通過



平成十三年度 陸上競技大会

水球

- ①②③ともに優勝



鉄道研究会

競泳

- ④インターハイへ3名出場

ワンダーフォーゲル

- ④夏山台宿・北アルプス槍ヶ岳



ワンダーフォーゲル部 夏山台宿北アルプス槍ヶ岳

(文化系部活動)

- オーケストラ
- 第25回定期演奏会

合唱

- 県連合、船橋地区音楽会参加
- 第23回定期演奏会
- 老人ホーム慰問



平成十三年度 合唱祭

●定時制の部活動●

全国大会出場記録

バスケットボール

- 於…東京体育館
- ベスト8(準々決勝進出)
- 8月2日 一回戦
- 対泊・沖縄 85対53
- 8月3日 二回戦、三回戦
- 対鶴岡工・山形 93対40
- 対前橋清陵・群馬 63対52
- 8月4日 四回戦
- 対上野・東京 60対72

バドミントン

- 於…小田原アリーナ
- 松本・武田組VS山形県ペア
- 8月15日 一回戦敗退

剣道(女子個人)

- 於…日本武道館
- 鈴木智花VS岐阜県代表
- 8月6日 一回戦敗退

サッカー

- 於…清水市
- 対徳風高校・三重県
- 一回戦敗退

野望

インターハイの夏

水泳部 八木 亮

(二年在学)

この夏、水泳に明け暮れることができた僕であるが、両親や先生、OBの方々と多くの人に支えていただけたことでそれができたのだ、と今感謝の気持ちで一杯だ。来夏に向け、感謝の心を忘れることなく精進していきたい。

僕は野望「インターハイ出場、あわよくば決勝進出」を抱いて、スタート台に立った。七月、栃木県で行われた関東大会において、田伏(男子二〇〇M背泳ぎ)、僕(男子五〇M自由形)、齋藤(女子五〇M自由形)はそれぞれ標準記録を突破し、晴れて八月に熊本で行われるインターハイの出場切符を手にした。熊本では温かな出会いがあった。熊本市在住のOBの方が、「母校の生徒がでてるのを見つけて、うれしくなっちゃって」と、僕達の宿泊先のホテルまで足をわざわざ運んで下さり、激励と差し入れをいただいた。さらに、レース当日、試合会場に応援に来て下さったのだ。そして、僕は全力を尽くすことができた。



水泳部

恩師探訪

歴史は浅くも・・・

十七年間の船高生活



三橋 衛先生

昭和三十三年、ソ連のスパイトニク一号が打ち上げられ、いよいよ宇宙時代の開幕が告げられた年、それが私の通算十七年におたる船高生活のスタートの時であった。

初めて訪れた船高の景観が今でも目に浮かぶ。バス停を降りるとすぐ正門、椎の木やヒマラヤ杉が僅かに前庭の体裁をなしていた（実は、後に七十周年記念事業の一環としてこの部分を整備し、今は「懐古園」となっている）。左手に講堂（兼体育館）、右奥に木造の校舎群があった。やや近代的な外観の玄関を入ると中は全く対照的で、薄暗い廊下の天井には数条の電線が這うのが見え、印象的であった。

根は優しい連中はかりだった。海から吹きつける強い風（誰が名付けたかモロツコ風）が花輪ヶ丘の土を削り砂嵐を巻き上げ、粗い砂粒が建付けの悪い窓から遠慮なく侵入してきた。先生方は個性的な人が多く、皆意欲的であった。学年会議はけんけんごうごう、議論が沸騰して時間の経つのを忘れ、終バスが行ってしまえば歩いて帰ることがしばしばであった。当時の船高は年間を通して多様な行事が盛り沢山に計画されていた。体育祭・文化祭・球技大会・全校マラソン・芸術鑑賞会・講演会・合唱コンクール・弁論大会・林間学校・遠足・修学旅行・予餞会等々、こうした行事が多く思い出や友情を育ててきた。中でも、体育祭は地域の人人々に期待される一大イベントであった。呼び物の棒倒しや騎馬戦は壮烈を極め、毎年怪我・流血が付きものだった。又、これに代って取り入れられた仮

装行列は様々な趣向が凝らされ、船高名物として沢山の観衆を集めたものだった。

部活動ではソフトボール部の顧問が長かった。着任の翌年私が創めた部で、最初は用具も揃わず随分苦労した。校庭の片隅に手造りでグラウンドを作り、校舎の古材を集めてきてバックネット代りの板塀を建てたが、それはフールボールで打ち抜かれず使い物にならなくなった。恵まれない条件の中でも部員はあきれるほど練習には熱心であった。真黒に陽焼けした彼女達も、卒業後のOG会ではすっかり漂白された。見違えるほど美しくなっていた。そして、ソフトボール部がなくなったことを口々に残念がっていた。

そのほか、生徒達との付き合いで忘れられないのは山歩きを思い出である。日曜日、希望者を連れてよく山へ出掛けた。丹沢の山々、箱根の外輪山、大菩薩峠、三ツ峠、八ヶ岳山麓等々、今でもその時のアルパムをめぐりながら懐かしい思い出に浸っている。

山と言えば白馬登山のことも忘れられない。昭和三十六年の夏休み、有志を募って登山隊（隊長は後に東京オリオンピクニックの式典を担当した松戸教頭先生）を編成して本格的な登山を試みた。途中大雪渓の上で雷に遭遇し恐怖を味ったのを思い出す。実はこの白馬登山が契機となつて翌年から船高の伝統的な行事として長く続く林間学校（高峰・飯綱・尾瀬）が始まることになった。

多くの卒業生が愛着を持つあの木造二階建の旧校舎が取り壊されたのが昭和三十九年の暮（現在の鉄筋校舎が半分完成した時）であった。その光景を何とも言いようのない感慨をもって見守つたのを忘れることができない。当時、旧校舎と新校舎を繋ぐ渡り廊下が運動場を横切つて延々と伸びていたが、それはまさに旧船高から新船高への転換を象徴するモニュメントでもあった。

昭和四十三年三月、四巡目の卒業生（第二十回）を送り出し、私も船高を卒業することになった（県教育委員会への転出。離任の日、旧講堂の傍の桜が見事な花を付けていた。その花びらを肩に思い出多い船高を去つた。昭和六十二年四月、縁あって再び船高に戻ってきた。最初の始業式で二十年ぶりに校歌を聞いた。一緒に歌いながら歌詞が変わっていることに気がついた。生徒は「輝く歴史に轟くその名」と歌ったが、私が覚えていたのは「歴史は浅くも轟くその名」であった。（あの頃の卒業生はクラス会で今でもそう歌っている、確かに船高はもう「歴史は浅くも……」は相応しくない。今や名実共に備わり、その名は全国に知られるようになった。この名門船高に帰ってきたことの喜びを、その時しみじみと感じたものであった。

船高に戻つて私の当面する大きな仕事は創立七十周年の記念事業であった。幸い同窓会の皆さんの温かいご支援ご協力を得て、それも無事に達成することができた。その七十周年も、もう一昔前のことになってしまった。

平成二年十一月二十四日、錦秋の佳日、過去への愛情と将来への期待を籠めて記念式典を挙行した。オーケストラ部の演奏の中を新調された校旗が入場、旗手は陸上競技部の下仁君（日本選手権走り幅跳二位、世界ジュニア選手権出場）が務めた。全校生徒の力強い校歌の斉唱（船高の誇れる伝統）、そして最後には合唱部により旧制中学時代の校歌が紹介された。こうした歴史と伝統に裏づけられた感動に酔う中で、この栄光の場に校長として身を置くことのできた喜びを実感した。



船高は昨年八十周年を了えた。百周年を迎える頃は更に飛躍を遂げていることだろう。その姿をこの目で確かめてみたい、そんな願望を抱き、私は日々健康に留意し精進している。船高の限らない発展を切望しつつ筆を擱く。

八十周年記念講演会

在校生を対象にした、江崎玲於奈先生の講演（平成12年2月記念講演会にて）と江川紹子さんの講演（同11月記念式典にて）の様様を80周年記念誌から転載し、掲載いたします。

変革の時代

科学者の歩んだ 五十年の道

講師 江崎玲於奈 先生

平成十二年二月四日、船橋市民文化ホールにて江崎先生をお招きしての講演会が行われた。半導体のトンネル効果の研究でノーベル物理学賞を受賞され、その後も常に時代の最先端を走っておられる先生のお話は刺激的で、大変示唆に富むものであった。先生は様々な資料をOHPで提示されながら、時には舞台の袖ぎりぎりまで進まれて、船高生に熱く語りかけてくださった。以下に、先生の講演の骨子を記す。

最初に先生は、次のようなニュートンの言葉を引用された。
If I have been able to see farther than others, it was because I stood on the shoulders of giants.
Isaac Newton



江崎玲於奈 先生

そして、人には対照的とも言える二つのタイプが存在すると説く。すなわち、リーダーとフォロワーである。

Leader (情報発信型) 将校

Follower (情報受信型) 兵卒

① 自分で自分が走る道を開拓する

② 問題探求志向、自力本願
Creative Mind

③ 未来(未知)への挑戦、リスクを恐れない

④ 過去(既知)に固執(温故知新) リスクを嫌う

⑤ として、先生は「情報を発信できる」「ファーストランナーを目指す」と呼びかける。

また、先生によると科学分野における今世紀最大の業績は、

1. Atom(原子)の構造を説明し、ミクロの立場から物質への理解を格段に高めた「量子力学」

の発展。固体エレクトロニクスの誕生。

2. Gene(遺伝子)の構造を説明し、ミクロの立場から生命体への理解を格段に高めた「分子生物学」の発展。バイオメダイカル、バイオテクノロジー、遺伝子工学の誕生。

3. われわれのMind(知)の機能を高めるのに役立つ「コンピュータ」の発展と通信ネットワークの整備

の三つであり、これらもファーストランナーが成し遂げたものと言える。

こうした先生のお考えは次のような文化理解にもよく現れている。すなわち、文化にも二つの型があるとする。

A. 古き良きものに憧れ、それにとらわれる文化(伝統文化)

—歴史志向(保守的) 知識力、理解力—既知を対象Regional傾向

B. 新しい進歩を求め、変革し止まない文化(科学文化)

—未来志向(革新的) 創造力、想像力—未知への挑戦(Global傾向)

である。もちろん、先生はAの文化を否定しているわけではない。

「如何にして指針を得るか—How to get guide lines」という点で、「温故知新」と言われるように、しかしそれはCONSERVATIVE(保守的)であり、facing the historyである。必要なのは、「未知への挑戦」であり、PROGRESSIVE(革新的)、facing the futureである。再度先生の言葉を借りれば、「Visit the future to find a guide」ということになる。「未来は現在の

延長ではない」という力強い主張は心に残った。

最後に先生が提示された「ノーベル賞をとるために、あるいは創造力を発揮するために、あるいはいけない五ヶ条」も、含蓄のあるものであった。それは、次のような教えである。

1. 今までの行き掛かりに捕らわれてはいけない。つまりしがらみのようなものに捕らわれると、新しい飛躍がそこにあっても、それが見えない、感知することができない。

2. 権威というものに、別の言葉で言うと大先生にのめりこまない。大先生はノーベル賞を取るかもしれないが、自分のところまで回ってこないかもしれないし、大先生にのめりこみ過ぎると自分というものの、自由奔放な発想を失う。

3. 古い、無用なものをすてなくてはいけない。

4. 自分を大事にする、自分の立場を守る必要がある。時には自衛のためには、戦うことも避けてはいけない。

5. 初々しい感性のようなものを失ってはいけない。

講演後の質疑応答では多数の生徒が質問の手を挙げたが、時間が限られていて、途中で会を終えなければならなかったのは残念であった。

最後にお礼の挨拶を終えた生徒会長がYシャツにサインを所望するといふハプニング(?)もあったが、それにも快く応じてくださった。貴重な時間をさいてくださった江崎先生には心より感謝申し上げます。(まとも八十周年記念誌編集委員会)



江崎玲於奈 先生

江崎玲於奈 先生

「夢の探し方」

講師 江川 紹子 さん

(昭和五十二年卒)



江川 紹子 さん

「私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。」

「私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。」

「私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。」



目次さんの勇姿

「夢の探し方」... 二〇〇〇(平成十二)年十一月二十四日に創立八十周年記念式典が本校体育館で挙行された。本校後、記念事業の一環として、本校の卒業生でもあるジャーナリストの江川紹子さんに「夢の探し方」という演題で記念講演をしていただいた。江川さんのお話は自らの体験を引用するなど具体的な例を盛り込んでわかりやすく、同時に多くのことを考えさせられる内容で、本校生徒、聴衆一同は深い感銘を受けた。

「私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。」

「私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。」

「私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。」

「私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。」

「私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。」

ばれた。

「私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。私は中学、高校、大学ではつきり自分がやりたい、なりたつ。」

編集委員会

フリークライミング in イラン

目次 容子(二年在学)

フリークライミングがアジアユース大会 in イラン、それが私の初めての海外遠征となった。七月二十三日午後十時、イランのテヘラン空港に着くと、そこは私が抱いていたイランのイメージそのものだった。厳格なイスラム教団ゆえに女性は男性の前では必ずスカートをかぶり、体をマントで覆い隠さなければいけない。これにはかなりの抵抗を感じたが、一週間の滞在を終える頃には、私もすっかりイラン女性の姿になつていた。イスラム文化に触れ、大会中他のアジア諸国の女の子たちと一緒に暮らし、友達になつて、私は

自分の国際的な視野が驚く程広がっていることを感じた。大会以上にそういった面でも本当に良い経験をさせてもらった。私がクライミングを始めてから一年、両親や友達の理解の中、本当に好きなことを思いっきりやらせてもらつてきた。クライミングは、自分の手と腕と足だけで登っていく、自分自身との闘いだ。始めた頃は、とにかく海外に行つてみたいという想いでクライミングをやっていたが、トレーニングをしていく中で、完登できた時の喜び、達成感が自分にとつての大きな支えになつていった。落ちる事の方が何倍も多いし、自信が打ち砕かれる事もしょっちゅうだ。でも、やっぱり楽しいし、もっとうまくなりたい、強くなりたいという想いがどんどん強くなつていく。きつと、これからも、そんな調子だと思つけど、自分もなりたいという気持ちを抱き続けていきたいと思う。

おたより彼れ是れ

平成十三年春の同窓会返信用葉書で寄せられた会員の「声」です。

清水増田秀子(昭和五十五年卒)

中一の息子が憧れている山田敦幹さんが後輩だったとは驚きです。

大塚昌治(昭和五十二年卒)

小滝先生の近況は非常に興味深く読みました。あの千石先生が船高出身だったとは、早速子供に自慢しました。

関根宏(昭和二十七年卒)

平成十一年から二年かけて「平成の伊能ウォーク」で日本一周一〇、〇三〇キロ歩きました。

河合慎一郎(昭和五十九年卒)

船橋へ行く機会はありませんが、成田空港へ向かう車窓から船高を眺めては、同級生のことを思い出しています。

平松井上裕美(昭和四十九年卒)

野球部が夏の大会でベスト八まで進んだ時は、私の時代も強くて連日天台に応援に行ったことを思い出しました。合唱部の後輩が頑張っているのもうれいです。

木村中(昭和五十二年卒)

卓球部のOBです。僕達の青春の思い出「旧体育館」はもうないのですね。同窓会だよりに現役部員の活躍が載っていないと寂しいです。

長谷川徹(昭和二十九年卒)

創立八十周年母校の発展に目を見張るばかりです。おたより彼れ是れを拝見し、船高の自由な校風が引き継がれており、改めて諸先生方に感謝します。毎年同窓会には出席したいと思っています。

篠塚潔(昭和四十三年卒)

平成十二年、昭和四十三年卒の同窓会を開きました。次回は十年後です。その時は皆還暦を迎えています。

後藤(阿部)雅子(昭和五十四年卒)

平成十二年夏は野球部の活躍をTVで見せてもらいました。懐かしい校歌も聞け、うれしく思いました。

高橋(額賀)洋子(昭和四十九年卒)

小滝先生の寄稿を拝見して高校時代が蘇りました。実験・観察の植物や生物ゴチャゴチャ見えていた生物室の二オイまで戻ってきたようです。

奥永琢哉(昭和六十年卒)

毎年八月と三月にサッカークラブのOB会(船高グラウンドにて開催)に参加しています。我がOB小野さんは今サッカー日本ユース(U-19)の監督です。頑張ってください。

藤田昌巳(昭和五十七年卒)

五十七年卒の剣道部OB会は毎年十月の第二土曜日に柔道部有志も含めて千成寿司で同窓会やっています。

塩田俊一(昭和三十一年卒)

還暦を機に巡礼の旅に出ました。西国八十八ヶ所巡りも二十一世紀の四月に八十八番の大窪寺で結願となります。同行二人(二百縁奇縁)

浜野(中原)美奈(昭和六十二年卒)

一部活動の状況を見て「競泳女子」の欄があつてホッとしました。部員が少なくてつらいつつ時代もあつたけど、今は快適な環境で思いっきり練習できるところでしょうか。

瀧口朔行(昭和二十五年卒)

昭和十八が九年頃の恩師だった、故佐瀬信義先生の戦死の地、糸満市

大里を確認しました。しかし、野戦病院の跡はついに判りませんでした。
山下美和子(昭和四十三年卒)

平成十三年春に長男が船高を卒業します。長男が在学していたので文化祭など何回か母校を訪れることができ、うれしく思いました。

古市正夫(旧職員)

平成十二年三月県立富里高を最後に定年退職。四月から私立高校で数学を担当していますが、授業の難しさを改めて実感したこの一年でした。
鈴木(植木)宏美(昭和五十五年卒)

昨年たちはな祭を久しぶりに見に行きました。校門近くで生徒が「お、我が母校さ」二十年ぶりの同窓会でも歌いました。歌えた自分にびっくり!

平澤優敏(昭和二十八年卒)

バスケット部OB会(昭二十六年〜四十年)平成十二年十一月三十名で開催。

中島(江)雅子(昭和三十六年卒)

同窓会だよりで小滝一夫先生のお元氣なお顔を拝見して高校生時代の生物の授業を懐かしく思い出しました。

和田任弘(昭和二十三年卒)

終戦直後、京城(現ソウル)から引き揚げ昭和二十一年四月船中四年に転入。苦しい時代でしたが、船中時代の思い出は楽しいことばかりです。

太田(田中)久子(昭和六十二年卒)

女子アーチェリー部の活躍を知りとても喜んでいました。船高に同部ができたのは高一年のとき。当時女子部員は私一人しかいませんでした。

高杉恒一郎(平成元年卒)

同期の山田君が棋士として頑張っている姿が取上げられ、大変勇気付けられました。

齋藤兼坂(美智子)(昭和三十三年卒)

昨年春の同窓会に初めて参加させていたいただき、見覚えのある懐かしい

年一回の同窓会だよりですが、皆さんが高校時代を思い出す便にお読みいただいていると、苦言・提言・激励等返信葉書の通信欄で多くの「意見」を賜り、感謝しています。

今後、この同窓会だよりを皆さんと母校を結ぶ掛橋として発行して参りたいと思っております。

しかし、財政面や人材確保の点から、同窓会だよりを継続してお送りすることが非常に難しくなりつつあり、昨年同様、以下のことを皆さんにお願ひ申し上げます。

是非とも「賛同」協力ください。

1 事務負担金の納入として、同封の振込用紙にて、一口千円を

お振込みください。今後はお振込みいただいた方に同窓会だよりをお送りいたします。

2 同窓会のホームページ立ち上げました。今後本HPの充実を図るため知識・技術をお持ちの方は是非、協力ください。HPは <http://www.tanaka-shi.jp/kenfuna> お立ち寄りください。

3 事務局と一緒に編集作業等手伝いいただける方、手を上げてくださいます。

2と3は、学校死連絡したくか、tanakabogorou@tanaka-shi.jp の四十八年卒島崎までメールを送ってください。

■ 編集後記 ■

小学校から大学まで同窓の友の名前を大学の同窓会通信で見つけた。母校の記念行事でパネリストを務めたということだが、なる程、こんな再会もいいんだと今更ながら納得した。そんな再会のお手伝いもできるんだな、同窓会だよりで……、と、何となく、自分なりに納得したのは編集作業終了後、さてさて……(昭和四十八年卒・S)

同窓会だよりの作成過程を拝見しました。裏方の仕事をなさっている皆さんには頭の下がる思いです。(昭和五十八年卒・Y)

八十周年式典では江川さん、わが同窓には橋本君に参加して頂きました。

同期の方々の協力に感謝いたします。(昭和五十二年卒・T)

顔、すっかりわからなくなってしまう人と再会して楽しいひと時を過ごさせていただきました。

武田(清家)宏子(昭和二十七年卒)

昨年初めてベースと言う楽器と出会いつぶりと浸かっています。その上今年からはドラマーとしてデビューの予定で人生を楽しんでいます。

藤本雅彦(昭和四十九年卒)

最近見にくくなりましたが、総武線から一瞬ではありますが、タイミングを合わせて懐かしい校舎を見るようにしています。

林(桑泉)珠紀(昭和六十三年卒)

船高水泳部で三年間毎日のように泳いでいました。今も泳ぎが生活の一部となっており、泳ぎについては高校時代が延長している感じです。

黒崎小笠原(美奈)(昭和六十三年卒)

主人の転勤で大阪に来ました。知らない土地で不安な時に、同窓会だよりが届き船高の写真が懐かしく、励まされた気がしました。

松原杏子(平成九年卒)

楽しく拝見しました。懐かしく思い、皆に連絡とってみようかという